

一九八〇年公開の映画『ミラクルワールド・ブッシュマン』は上空の軽飛行機からブッシュマンの集落の付近に投棄されたコーラの空瓶が集落の騒動の原因になるという場面から出発する。そこで騒動の鎮静のため、集落の代表が空瓶を遠方に廃棄するため荒野に旅立つという物語であるが、文明社会の根底にある問題を提起する内容であった。

しかし、現在の先進諸国ではコーラの空瓶どころか、家具や家庭電化製品まで廃棄されたり、使用されないまま家庭の片隅に放置されたりしている。日本における後者の資産価値をメルカリが推計した結果によると、二〇一八年には三七兆円であったが、わずか三年が経過した二〇二一年には四三兆円と一・二倍に増加している。

割算すると、国民一人あたり三五万円、家庭あたり七四万円の資源が休眠していることになる。この三五万円についても内訳が調査され、書籍やCDが三五%、衣服が三四%、家具や家庭電化製品が一六%となっている。次々と開発される製品の性能は向上している一方、このような問題を発生させていることになる。

この問題への対応は回収して資源に還元するリサイクルが主流であったが、最近は不要になった製品を業者が回収し、整備して市場に還元するリユースが急速に増加しており、国内のリユース市場の規模は二〇一〇年の一兆一四〇〇億円から一〇年後には二兆四〇〇〇億円になり、二〇三〇年には約四兆円になると推計されている。

この拡大していくリユース市場の構成は専用の業者が回収して中古商品として店舗で販売する「B to C」が約三七%であるが、インターネット経由の「B to C」も一九%になっている。さらに最近ではメルカリのようなインターネット市場で個人と個人が取引できる「C to C」が急速に普及し、その比率は約四三%になっている。

かつて若者が社会生活や結婚生活を開始すると、家具や電気製品を一式用意するのが一般であったが、ここまで紹介した流通構造の変化を反映して、最近では日常生活で使用する家具や電気製品を定額で賃借するサブスクリプション（定額使用）で用意する傾向が増大している。所有から利用への転換である。

この転換は物質から情報に波及している。筆者の世代は自分の趣味に合致する音楽を鑑賞するためにはレコードやCDを購入するのが一般であったが、現在ではアップルやアマゾンなどのサブスクリプションにより、自費で購入するのとは桁違いの種類の音楽を鑑賞することが可能になっており、書籍についても同様である。

一九九〇年代に一般社会に解放されたインターネットは通信の距離と時間に比例しない定額料金で社会の情報通信構造を激変させたが、世界の人口の約六七%に浸透した現在、社会構造を根底から変革する手段になっている。この構造を基盤に生成AIという技術が浸透したとき、どのような社会が登場するかは世界の課題になる。

江戸時代の江戸の庶民の大半は押入れもない長屋で生活していたが、その押入れの役割をしていたのが質屋であり、季節が変化する時期に不要になった夏物や冬物は質屋に質入れして賃料を支払って保管していた。最近は様々な意味で江戸時代の見直し評価がされているが、生活も同様に回帰しているようであり、情報技術が新規の江戸時代を創出しつつある。